核兵器のない世界へ
いま、行動を――

原水爆禁止2008年世界大会・広島大会

8月4日～6日の広島・原爆ドーム前には世界の各地から訪ねた人たちでいっぱい。コンサートやつどいがひらかれていました

「核兵器のない世界」を求める声が世界の大勢になっている今、2008年原水爆禁止世界大会・広島が８月４日から６日まで、被爆地ヒロシマの県立体育館（グリーンアリーナ）で開催されました。全国各地から7000人を超える参加者は、開会総会、分科会、基地視察、閉会総会などに積極的に参加し、核廃絶への世界的な高揚をさらに広げていく思いを共有しました。大阪代表団には400人あまり、大阪自治労連からは36人が参加しました。

全国から7800人が参加した広島大会の閉会総会

原水禁大会・広島に先立つ８月１日には「海外代表と語ろうピースインおおさか2008」を開催。海外代表と大阪の代表団が交流

おおさか自治体の仲間　発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2008年８月15日　No.235

〒530－0041　大阪市北区天神橋１－13－15大阪グリーン会館４Ｆ　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／谷　真琴　　編集人／西岡　健二
平成２年９月12日第３種郵便物認可
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

日時だよ！ 全員集合

2008年８月～10月のとりくみ＆行事

- **８月25日（月）～27日（水）**　自治労連第30回定期大会（長崎市）
- **９月６日（土）**　大阪労連第37回定期大会（エルおおさか）
- **９月９日（火）**　府下全駅「９の日」宣伝行動日
- **９月10日（水）**　大阪憲法会議・共同センター秋の運動スタート集会（大阪グリーン会館）
- **９月11日（木）～12日（金）**　大阪自治労連第21回定期大会（シティプラザ大阪）
- **９月14日（日）**　大阪自治労連秋の組織集会（シティプラザ大阪）
- **９月17日（水）**　府民要求連絡会定期総会（大阪グリーン会館）
- **９月19日（金）**　自治労連近畿ブロック定期総会（シティプラザ大阪）
- **９月20日（土）～21日（日）**　大阪労連＆勤労協第７回役員セミナー（東大阪市・ホテルセイリュウ）
- **９月23日（火）**　大阪衛都連定期大会（シティプラザ大阪）
- **９月27日（土）～28日（日）**　第29回自治体にはたらく女性の全国交流集会（奈良市）
- **10月18日（土）～19日（日）**　第９回地方自治研究全国集会（京都市）
- **10月23日（木）～25日（土）**　第20回自治労連全国スポーツ大会・軟式野球大会（大阪市・豊中市）

「にゅーす市公労」が１００号に

大阪市公務公共労働組合

8月１日付の100号記念号

大阪市公労（大阪市公務公共労働組合）の機関紙『にゅーす市公労』がこの８月１日号で念願の１００号に達しました。大阪市公労が誕生したのは２００３年の９月でした。大阪市役所での非常勤職員、嘱託職員、パート、アルバイトなどの非正規職員の増加によって、雇い止めや解雇問題がつぎつぎと発生したこともあって、大阪市役所の非正規職員の賃金や労働条件を守る労働組合を立ち上げたのです。そして、立ち上げと同時に、機関紙『にゅーす市公労』を発行してきました。１００号は5年間、休まず発行し続けてきた大きな峰です。

今日もパソコンに向かって「にゅーす市公労」をつくる武久さん

結成から大阪市公労の書記長をつとめ、機関紙を作り続けてきた武久英紀さんは「40年以上も前に、ガリ版刷りで機関紙を作ったことがありますが、今は『パーソナル編集長』というソフトで作っています。最初はちょっとまごつきましたが今は慣れてきました。１号発行すると、もう次号のことを考えないといけないので、結構忙しいですわ。紙面でむつかしいのは『コラム欄』ですわ。いろんな雑誌やインターネットから話題をひろったりして作っています」と、今日もパソコンに向かいます。１００号の機関紙は記念号として数回にわたって発行する予定です。

機関紙の発行はいま１５００部。組合員はもちろん、組合員のいない大阪市の職場にも大阪市労組の協力を得ながら、いろんな方法で配布しています。大阪市公労にとって、組織拡大は毎日の課題です。まさに闘いのなかで機関紙の果たす役割も大きいものがあります。「機関紙は仲間とのつながり、学習と情報交換の場、そして仲間を守り鍛える闘いのツールです」と武久英紀さん。頭をよぎる思いは、１００号記念祝賀会でウマいビールを仲間と飲むことでしょうか。

BOOKオン（本の紹介）

「上を向いて歩こう」

著者　小林雅之
定価　本体１２００円＋税
発行所　本の泉社

タイトルを見れば、やはり真っ先に頭に浮かぶのは歌手・坂本九のことでしょう。このタイトルは、著者が東京公務公共一般労組の機関紙『公共一般』に2003年から2006年までの３年間にわたって連載したエッセイの名前です。これが、１冊の本になりました。組合の書記長として、専従のオルグとして、13年間にゼロから3000人の組合員を組織してきた著者の闘いの記録でもあり、仲間との交遊録でもあります。全50話には喜怒哀楽がギッシリと詰っています。格差と貧困が長引くいまの日本社会で、非正規労働者や青年たちへの夢とロマンのメッセージでもあります。だからこそ「上を向いて歩こう」のタイトルなのです。